理工学部

第1章	理念・目的	1
第 3 章	教員•教員組織	5
第 4 章	教育内容・方法・成果	
1	教育目標、学位授与方針、	
	教育課程の編成・実施方針	11
2	教育課程 • 教育内容	16
3	教育方法	22
4	成果	28
第5章	学生の受け入れ	31
第7章	教育研究等環境	36

	理工学部
学部·研究科等名	工学部
	(機械工学科、電気電子情報工学科、情報ネット・メディア工学科、社会環境ンステム学科、物質生命科学科)

基準 No.	基準項目
1	理念・目的

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目			
101	大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。			
	現在の状況(年度開始 時)			

理工学部は、建学の精神と校訓に基づき「教育研究上の目的」を学則に定め、さらに「教育理念及び教育方針と目標」を策定している(資料1、2)。

本学部は、本学の理念に則した人格の陶冶を第一に掲げ、キリスト教学を中心としてその実体化に対応している。また、これまでに社会に対して技術者を輩出してきた工学部からの資源を継承した学系制により、社会に貢献する人材の育成に対応している。実績や資源からみて理念・目的は適切である。ただし、教育研究上の目的と教育理念で内容が重複している。さらに、理念・目的において、キリスト教の精神に基づく人格の陶冶を第一に掲げてキリスト教主義の大学であることを明示し、科学技術に携わる人材の育成を掲げることで学部の個性化に対応している。

項目No	点検・評価項目
102	大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(学生・教職員)に周知され、社会に公表されているか。
	現在の状況(年度開始時)

理念・目的はホームページ上で公表し、大学構成員のみならず社会にも広く周知している(資料 3)。「教育理念及び教育方針と目標」については、「履修要綱」にも掲載し、大学構成員への周知を図っている(資料 4)。また、新任教員には着任時の新任者研修会において、理念・目的を詳しく説明している(資料 5)。今後は、周知方法の有効性について検証していく必要がある。

なお、「教育理念及び教育方針と目標」については、ホームページと「履修要綱」において記載内容の相違があったが是正された。対象とする読み手に則した文体の相違はあるが内容の相違はなく、整合性が取れている。また、これは設置届出書において本学部の人材育成の目的として記載している内容とも対応している(資料 6)。

項目No	点検・評価項目			
103	大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。			
	現在の状況(年度開始時)			
理工	理工学部自己点検・評価委員会の規程に基づき、理念・目的の適切性を定期的に検証している(資料7)。			

(1) 方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認) に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・ 評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2) 点検・評価(振り返り)【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価(振り返り)を行い、その 内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容 と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策に ついて、箇条書きで記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

	to 1.6 The first in						
項目No	点検・評価項目						
101	01 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。						
	方針・目標・取組・改善方策等						
教育	研究上の目的、教育理念の位置づけ、記載内容は、全学の方	針と連携して必要な見直しを行う。					
教育	研究上の目的と教育理念の内容の重複について、2014 年度	に再策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえた					
	念の見直しを行う。						
•理念·	・目的の見直しにおいても、個別化に留意・維持する。						
	効果が上がった	・改善された事項					
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)						
特にな	特になし。						
	改善すべ	でき事項					
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に向けた発展方策)					
教育研	F究上の目的と教育理念の内容の重複が解消されていな	教育研究上の目的として示すべき内容について、の方針と連携し					
い。		て必要な見直しを行う。					
	評価(D視点					
1	理念・目的を明確にしているか。	明確にしている/ していない					
2	理念・目的間の整合性は取れているか。	取れている/取れていない					
3	③ 実績や資源からみて理念・目的は適切か。 適切である/ 適切でない						
4	理念・目的の個性化						

	項目No	点検・評価項目				
Ī	102	02 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(学生・教職員)に周知され、社会に公表されているか。				
	方針・目標・取組・改善方策等					
	・理工学部の理念・目的は、従来どおり「履修要綱」とホームページによって学生および教職員に周知する。					
	・理工学部の理念・目的は、引き続きホームページによって社会に公表し、周知する。					
	四人口处众国际大汉。大学以及					

・理念・目的の周知方法の有効性について検証する。

・教職員、学生および社会へ公表される各種媒体において、学部の理念・目標が統一的に記載されているかを常に検証し、齟齬があれ ば修正する。ガイドブック等、年度内に作成される文書に記載する場合にも整合性が確保されることを確認する。 効果が上がった・改善された事項

	内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に向けた発展方策)				
「履修要綱」の記載を修正し、ホームページ等との記載の違いを		各種媒体への記載あたっては、『履修要綱』の記載に準拠すること				
解消した。		とし、齟齬がないことを確認する。				
	改善する	べき事項				
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	特になし。					
	評価	の視点				
⑤ 大学構成員(学生・教職員)に対する周知方法とその有効性		周知している/ していない				
⑥ 社会への公表方法		公表している/ していない				
⑦ 明示媒体による違いはないか。		違いはない/ 違いがある				

項目No	点検・評価項目					
103	大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。					
	方針・目標・取	組・改善方策等				
引き糸	売き、理工学部自己点検・評価委員会の規程に基づき、理念・	目的の適切性について当該委員会で定期的に検証を行う。				
	効果が上がった	・改善された事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	:L ₀					
	改善する	ぐき事項				
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)					
特にな	:L ₀					
	評価の視点					
8	定期的に検証を行っているか。	検証を行っている/ 行っていない				

上記「2.」の点検・評価(振り返り)結果に基づき、項目毎に

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がにぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の4段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

				自己評価						
項目No	点検・評価項目		評価の視点 評価の視点 説		2014 年度			2015 年度		
XI	MIX HIM XI				評価	評価	評価	評価	評価	
					項目	基準	視点	項目	基準	
	大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	1	理念・目的を明確にしているか。	А			А			
101		2	理念・目的間の整合性は取れているか。	-	А		А	- A		
101		3	実績や資源からみて理念・目的は 適切か。	В			А			
		4	理念・目的の個性化	А			А			
大学• 学	大学・学部・研究科等の理念・目	5	大学構成員(学生・教職員)に対す る周知方法とその有効性	В	В	A	А		A	
102	的が、大学構成員(学生・教職員) に周知され、社会に公表されてい るか。	6	社会への公表方法	А			А	А		
		7	明示媒体による違いはないか。	А			А			
103	大学・学部・研究科等の理念・目 的の適切性について定期的に検 証を行っているか。	8	定期的に検証を行っているか。	,	Ą		Å	4		

※ 評価基準: 基準項目に対する評価 評価項目: 点検・評価項目に対する評価 評価視点: 評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

資料 No	根拠資料の名称		
1	関東学院大学学則 第4条第2項第7号		
2	大学及び学部・研究科の教育理念及び教育方針と目標		
2	関東学院大学ホームページ「関東学院大学の情報」(1.大学の教育研究上の目的に関すること)」		
3	$http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2015/disclosure_1-1-3.pdf$		
4	2015 年度履修要綱(理工学部)		
5	2015 年度理工学部、建築・環境学部及び工学部新任者研修会プログラム		
6	関東学院大学ホームページ「関東学院大学の情報」(13. 学部等の設置認可・届出、履行状況報告に関すること)		
0	http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/disclosure_13-1.pdf		
7	関東学院大学理工学部自己点検•評価委員会規程		

	理工学部
学部·研究科等名	工学部
	(機械工学科、電気電子情報工学科、情報ネット・メディア工学科、社会環境ンステム学科、物質生命科学科)

基準 No.	基準項目	
3	教員·教員組織	

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	No 点検・評価項目		
301	大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。		

現在の状況(年度開始時)

関東学院職制において、教育基本法、学校教育法及び学則の定めに従い、学生を教授し、その研究を指導し、かつ研究に従事することを定めている。

理工学部では大学全体の規程・基準・方針に基づいて定めた教員像に沿って教員を選考している。理工学部の教員に求める能力、 資質を確保するための基準を関東学院大学理工学部教員推薦基準として定めている(**資料 1**)。

理工学部は7学系(生命、数物、化学、機械、電気、情報、土木)及び共通科目を設置し、それぞれ教育課程を教授するために必要な分野と教員数を確保することを方針として整備している。

関東学院職制において、組織的な連携が規定されているとともに、学部長が学部における教学を統括することが規定されている(**資料2**)。

学部の意思決定・調整機関として教授会を設置し教育にかかる責任の所在を明らかにするとともに、教授会のもとに人事委員会、教務委員会、FD 委員会等を設置して組織的な連携体制を構成している。

項目No	点検・評価項目	
302	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	

現在の状況(年度開始時)

大学で設定している教員定数に基づき、設置基準上必要となる教員数を満たす学部の教員を配置している(資料3)。

2015年5月1日現在の教員数は、生命学系6名、数物学系6名、化学学系7名、機械学系11名、電気学系11名、情報学系11名、 土木学系7名を配置している。共通科目に4名が在籍している(資料4表2)。男女比は約9:1である(資料5)。

2015年5月1日現在の在籍学生数は、専任教員63名に対し1,976(工学部(建築学科を除く)の学生を含む)で、専任教員1名あたりの在籍学生数は32名である(資料6)。この比率は、本学が定める「専任教員一人当たりの学生数」を満たしている(資料3)。

理工学部では本学の理念・目的実現の中心的役割を担うため、本学部にはキリスト教学を専門とする専任教員を配置している。 教員の年齢構成について、専任教員の61歳以上は3割程度までとなるように配慮し、現状は19.0%となっている(資料7、8)。

授業科目と担当教員の適合性については、実施前年度に担当予定表を作成し、教務委員会にて精査のうえ、教授会の承認を得て決

定している。		

項目No	点検・評価項目		
303	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。		
	現在の状況(年度開始時)		

教員の募集・採用・昇格は学院および大学の規程に基づいて、関東学院大学理工学部人事委員会規程を定めて行っている(資料9)。昇格の条件については、関東学院大学理工学部教員推薦基準で定めている(資料1)。

理工学部人事委員会のもとに編成する審査委員会で人事委員会を設置し、履歴書等を精査し、規程に定めた基準を満たしていること、教育課程の担当能力に対応した経歴と業績を有することを厳格に審査している。

採用に際しては、研究業績偏重とならないように模擬授業を課し、教育能力についての審査を行っている。

人事委員会の審議決定事項は、教授会の承認を得たうえで、大学人事委員会に推薦している。

邛	间No	点検・評価項目
304	204	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。(※ここでのFDは「教員の資質向上」に関する活動を
	指す。「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動は、点検・評価項目 No.411 参照。)	

現在の状況(年度開始時) 2013年度より、専任教員の自己点検・評価を開始した。2015年度についても全専任教員に教員の教育研究活動について自己点検評価シートの提出を求めている。

FD活動については、学部FD委員会を中心として、高等教育研究・開発センターと連携して進めている。FD委員会では、授業改善アンケートや公開授業の実施や結果の有効活用、各学系のFD目標の設定と評価、外部のFD関連講習会などの報告、その他授業改善に関わる事項について議論している。

教育に関する向上として全学的な方策に順じて進めることを基本とする。また、授業改善アンケートの有効性について、評価点は上昇傾向にあり、授業改善の効果は長期的には上がっている(資料10)。

研究に関する資質の向上として、教育実践力の向上という観点から、教員による教材作成を推奨し、工学総合研究所において助成している段階であり、各方策の有効性については今後検証してゆく。

(1) 方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認)に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に<u>箇条書きで</u>記述してください。

(2) 点検・評価(振り返り)【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価(振り返り)を行い、その 内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容 と次年度以降に向けた伸長方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行なってください。

	P.L.	N 37/m-E D			
項目No	点検・評価項目				
301	大学として求める教員像および教員組織の編制方	針を明確に定めているか。			
	方針・目標・取	組・改善方策等			
•大学	設置基準を満たす人事を行う。 教員構成の方針について、明	文化を進める。外国人教員構成、任期制等の条件付き採用教員(助			
教)構成	成、専兼比率については、全学的検討と協調して検討を行う。	学部内における教育研究に係る責任の所在の明文化を検討する。			
	効果が上がった・改善された事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	特になし。				
	改善する	べき事項			
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	特になし。				
評価の視点					
1	教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	明確にしている/ していない			
2	教員構成を明確にしているか。	明確にしている/ していない			
3	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在を明	月確にしているか。 明確にしている/ していない			

項目No	点検・評価項目				
302	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を	整備してし	いるか。		
	方針・目標・取	組・改善	方策等		
•継続]	て学部学系構成や年齢構成に配慮した人事を行う。また、組	続して授業	(科目と担当教員の適合性の判断を行う。)		
	効果が上がった・	改善され	た事項		
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)				
2017 年度の学部定員増加に合わせて、学生数に対応した学系教 計画に貝		計画に則	り、教育研究内容に適合した人事を進める。		
員配置	員配置の整備計画を決定した。				
	改善すべき事項				
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	特になし。				
	評価の	D視点			
4	編制方針に沿った教員組織を整備しているか。		整備している/ していない		
5	⑤ 専任教員の年齢構成等は適切か。		適切である/ 適切でない		
6	⑥ 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備しているか。		整備している/ していない		
7	⑦ 研究科担当教員の資格を明確にしているか。(研究科、法務研究科)		明確にしている/していない		
8	⑧ 研究科担当教員を適正配置しているか。(研究科、法務研究科)		適正配置している/していない		

項目No	点検・評価項目				
303	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。				
	方針・目標・取	組・改善方策等			
·継続[て、規程に沿った募集、採用、昇格を行う。また各学系で設定	定している昇格基準	単について学部における整備を進める。		
	効果が上がった・改善された事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	特になし。				
	改善すべき事項				
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)				
学系ご	学系ごとの昇格基準についての学部における整備には至ってい 学系ご		こ配慮しつつ、学部内整備を検討する。		
ない。					
評価の視点					
9	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きを明確	雀にしているか。	明確にしている/ していない		
10	規程等に従った適切な教員人事を行っているか。		行っている/ 行っていない		

項目No	点検・評価項目				
204	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。(※ここでのFDは「教員の資質向上」に関する活動を				
304	指す。「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動は、点検・評価項目 No.411 参照。)				
	方針・目標・取	組・改善方策等			
·継続[して専任教員の自己点検・評価を行う。て高等教育研究・開発	センターと連携した FD 活動を行うとともに、活動の有効性について			
検討し	改善に努める。				
	効果が上がった・改善された事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	特になし。				
	改善す [^]	き事項			
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に向けた発展方策)			
特になし。					
評価の視点					
(1)	教員の教育研究活動等の評価を実施しているか。	実施している/ していない			
12	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	実施している/ していない			

上記「2.」の点検・評価(振り返り)結果に基づき、項目毎に

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がにぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の4段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

				自己評価									
項目No	点検・評価項目	評価の視点		2014 年度			2015 年度						
				評価 視点	評価 項目	評価 基準	評価視点	評価 項目	評価 基準				
	大学として求める教員像および教 員組織の編制方針を明確に定め ているか。	1)	教員に求める能力・資質等を明確 にしているか。	А	В		А						
301		2	教員構成を明確にしているか。	В			В	ВВ					
		3	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在を明確にしているか。	В		В							
	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	4	編制方針に沿った教員組織を整備しているか。	А	A B		А	A A A	В				
		(5)	専任教員の年齢構成等は適切か。	А			А						
302		6	授業科目と担当教員の適合性を判 断する仕組みを整備しているか。	А			А						
		7	研究科担当教員の資格を明確にしているか。(研究科、法務研究科)			В							
		8	研究科担当教員を適正配置しているか。(研究科、法務研究科)										
303	教員の募集・採用・昇格は適切に	9	教員の募集・採用・昇格等に関する 規程および手続きを明確にしてい るか。	А	A		А	А					
	行われているか。	10	規程等に従った適切な教員人事を 行っているか。	と適切な教員人事を S	S								
304	教員の資質の向上を図るための 方策を講じているか。	(1)	教員の教育研究活動等の評価を実 施しているか。	А	В		А						
304		12	ファカルティ・ディベロップメント(F D)の実施状況と有効性	В			В	D					

※ 評価基準: 基準項目に対する評価 評価項目: 点検・評価項目に対する評価 評価視点: 評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

資料 No	根拠資料の名称		
1	関東学院大学理工学部教員推薦基準		
2	関東学院職制 第5章 第1節 教職員の基本職能		
3	基準教員表		
4	2015 年度大学基礎データ		
5	関東学院大学教員組織(職位別・男女別人数・設置基準上必要となる専任教員数)(2015 年 5 月 1 日現在)		
6	学事統計 (2015年5月1日現在)		
7	関東学院大学専任教員年齢構成(2015年5月1日現在)		
8	2015 年度第 1 回理工学部人事委員会資料		
9	関東学院大学理工学部人事委員会規程		
10	理工学部・工学部 学生による授業改善アンケート報告書		

	理工学部
学部・研究科等名	工学部
	(機械工学科、電気電子情報工学科、情報ネット・メディア工学科、社会環境システム学科、物質生命科学科)

基準 No.	基準No. 基準項目		
4	教育内容·方法·成果		
41	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針		

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目			
411	教育目標に基づき学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を明示しているか。			
	現在の状況(年度開始時)			

<教育目標の明示について>

教育目標(教育方針と目標)を明確に示している(資料1)。

<3 ポリシー(学位授与方針(ディプロマ・ポリシー))の明示について>

教育目標に基づき、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシー(以下「3ポリシー」という。)を策定・明示している(資料1)。学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)には、修得すべき学修成果を明確に示している。なお、3ポリシーは全学方針に則って策定している(資料2)。

<学位授与の要件(卒業の要件)の明示について>

学位授与の要件(卒業の要件)について、学則および履修規程、履修要綱に明確に示している(資料3~5)。

項目No	点検・評価項目		
412	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示しているか。		
	現在の状況(年度開始時)		

<3 ポリシー(教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー))の明示について>

教育目標に基づき、3 ポリシーを策定・明示している(資料 1)。なお、3 ポリシーは全学方針に則って策定しており、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性は取って策定している(資料 2)。

<科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について>

授業科目の区分、必修・選択の別、単位数等について、学則および履修規程、履修要綱に明確に示している(資料3~5)。

項目No	点検・評価項目
413	教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)が、大学構成員(学生・教職員)に周知され社会に公表されているか。
	が、八丁一件次長、丁工・が成長バーのかられるにおないが、

現在の状況(年度開始時)

教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、学位授与の要件(卒業の要件)、授業科目の区分、必修・選択の別、単位数等について、履修要綱およびホームページに掲載し、学生・教職員への周知および社会への公表を行っている(資料5~8)。なお、3ポリシーについては履修要綱への掲載が間に合っていない。

今後は、周知方法の有効性について検証していく必要がある。

項目No	点検・評価項目			
414	教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー) の適切性について定期的に検証を行っているか。			
	現在の状況(年度開始時)			

年 2 回(夏期および春期)行われる学部および各学系の教員研修会において、教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、カリキュラム実施状況等についての検討を行っている(資料9、10)。

(1) 方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認)に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に<u>箇条書きで</u>記述してください。

(2) 点検・評価(振り返り)【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価(振り返り)を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と 次年度以降に向けた伸長方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目				
411	教育目標に基づき学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を明示しているか。				
	方針・目標・取	組・改善方策等			
1	方針(全学的な合意形成)に基づき3ポリシーを再策定・明示				
	目標と学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を取る。				
・学位法	受与方針(ディプロマ・ポリシー)に修得すべき学修成果を明え				
	効果が上がった。	・改善された事項			
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)				
全学方針に基づいた3ポリシーの再策定・明示を行った。		現状を維持する。			
学位授	を与方針(ディプロマ・ポリシー)の中に修得すべき学習成果				
を明示	を明示した。				
	改善すっ	ぐき事項			
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	٤٤.				
評価の視点					
1	教育目標を明示しているか。		明示している/ していない		
2	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を明示しているか。		明示している/ していない		
3	教育目標と学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性は取れているか。		取れている/ 取れていない		
4	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に修得すべき学修成果を明示しているか。		明示している/ していない		

項目No	点検・評価項目				
412	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示しているか。				
	方針・目標・取組・改善方策等				
•学位	受与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施方針	(カリキュラム・ポリシー)の整合性	を取る。		
	効果が上がった。	・改善された事項			
内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)			こ向けた発展方策)		
全学力	が針に基づいた3ポリシーの再策定・明示を行い、教育課程	2016 年度の早い段階で、各コ	ースの教育課程の編成・実施方針		
の編成	・実施方針(カリキュラム・ポリシー)についても学位授与方	(カリキュラム・ポリシー)の作成を行う。			
針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を取って再策定した(資料					
1)。					
各コースの教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の					
策定を	検討しており、2015年度中に案を作成した(資料11)。				
	改善す~	*き事項			
内容(明らかになった課題点など)		改善方策(将来に向けた発展方策)			
特にな	الر.				
評価の視点					
5	⑤ 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示しているか。 明示している/していない		明示している/ していない		

6	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)と の整合性は取れているか。	取れている/ 取れていない
7	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示をしているか。	明示している/ していない

項INo	点検・評価項目				
410	教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)				
413	が、大学構成員(学生・教職員)に周知され社会に公表されているか。				
	方針・目標・取	組・改善方策等			
	シーを再策定し、ホームページの更新および履修要綱への排				
		>編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の周知方法の有効性につ			
いて検	注証する(検証方法等を検討する)。	ルギャルを事項			
効果が上がった・改善された事項					
	内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に向けた発展方策)			
3 ポリシ	ン一の再策定が行われ、ホームページで公表している。	公表に関しては、現状を維持する。大学、学部のホームページ、			
学部の	つポリシーについては、2015年度履修要綱に掲載することが	履修要綱の間で、食い違いが生じないようにする。			
できな	かったが、2016年度履修要綱から掲載するようにした(資料				
12) _°					
"教育	理念及び教育方針と目標"について、大学ホームページと				
2015年	F度履修要綱で文体が違っていたが、2016 年度履修要綱か				
ら一致	するようにした(資料1、12)。				
		き事項			
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に向けた発展方策)			
学生・教職員の周知方法の有効性については、現在検証されて		周知方法の有効性について検証する(検証方法等を検討する)。			
おらず、今後その検証方法について検討していく必要がある。					
評価の視点					
8	大学構成員(学生・教職員)に対する周知方法とその有効性	周知している/ していない			
9	社会への公表方法	公表している/ していない			

項目No	点検・評価項目					
111	教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)お	よび教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)				
414	の適切性について定期的に検証を行っているか。					
	方針・目標・取	組・改善方策等				
•研修:	会のテーマを適切に設定し、改善・改革につなげていく。					
	効果が上がった	・改善された事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)					
年2回	回の教員研修会において、カリキュラム実施状況について報	適切なテーマを設定し、改善・改革につなげていく。				
告が行	告が行われている(資料13、14)。					
	改善する	べき事項				
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	特になし。					
	評価の視点					
10	定期的に検証を行っているか。	検証を行っている/ 行っていない				

上記「2.」の点検・評価(振り返り)結果に基づき、項目毎に

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がにぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の4段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

					自己評価						
項目No	点検・評価項目	評価の視点		2	014年	度	2015 年度				
7,1	WIN KIMAN			評価視点	評価 項目	評価 基準	評価視点	評価項目	評価基準		
		1	教育目標を明示しているか。	А			А				
	教育目標に基づき学位授与方針	2	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を明示しているか。	А			Α	A			
411	(ディプロマ・ポリシー)を明示して いるか。	3	教育目標と学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性は取れているか。	В	В	В	А		В		
		4	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に修得すべき学修成果を明示しているか。	В			А				
	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示しているか。	(5)	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示しているか。	Α	В		А				
412		6	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)との整合性 は取れているか。	В			Α				
		7	科目区分、必修・選択の別、単位数 等の明示をしているか。	А			Α				
	教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程	8	大学構成員(学生・教職員)に対す る周知方法とその有効性	В			В				
413	の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)が、大学構成員(学生・ 教職員)に周知され社会に公表されているか。	9	社会への公表方法	А	В		А	В			
414	教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の適切性について定期的に検証を行っているか。	10	定期的に検証を行っているか。	ļ	A		F	4			

[※] 評価基準:基準項目に対する評価 評価項目:点検・評価項目に対する評価 評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

資料 No	根拠資料の名称
1	関東学院大学 理念·目的等 p.25~29
2	2014年度第3回関東学院大学自己点檢•評価委員会議事録 報告事項2
3	関東学院大学学則 第9条、17条の2、34条
4	関東学院大学理工学部履修規程 第 2、3、22 条
5	理工学部「2015 年度履修要綱」
	関東学院大学ホームページ「関東学院大学の情報」(1.大学の教育研究上の目的に関すること、5.授業科目、授業の方法及び
6	内容並びに年間の授業計画に関すること、6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること)
	http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html
7	関東学院大学ホームページ「理工学部」
,	http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/faculty/science_and_engineering.html
8	関東学院大学理工学部ホームページ(オリジナルサイト)「学部案内(3 つのポリシー)」
	http://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/gakubu/page02.php
9	2014年度理工学部夏期研修会予稿集
10	2014年度理工学部春期研修会予稿集
11	2015年度第11回理工学部教務委員会メモ
12	理工学部「2016年度履修要綱」
13	2015 年度理工学部夏期研修会予稿集
14	2015 年度理工学部春期研修会予稿集

	理工学部
学部・研究科等名	工学部
	(機械工学科、電気電子情報工学科、情報ネット・メディア工学科、社会環境システム学科、物質生命科学科)

基準 No.	基準項目					
4	教育内容•方法•成果					
42	教育課程•教育内容					

1. 現状の確認 【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
421	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

現在の状況 (年度開始時)

学則に基づき、授業科目を共通科目および専門科目で構成し、11 コースの教育課程を編成している。また、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、各コースの分野や目的に応じて必要な授業科目を開設し、コース毎に修得すべき科目もしくは単位数を卒業要件として定めている。なお、授業科目の区分の枠にとらわれない履修(授業科目区分毎の卒業所要単位数を超えて履修した科目および他学部や他大学開講科目の履修など)については、自主選択学修の科目として開設し、卒業要件として認めている。さらに、諸課程として教職課程も開設している。なお、取得できる免許状および教科はコース毎に異なる。また、関連科目を体系的に学ぶことができる 6 つの副専攻の教育課程を開設し、他学部に提供している。なお、理工学部の学生は、他学部が開設している副専攻の教育課程を履修することができる。さらに、理工学部の学生を対象とするサブプログラム制度を導入し、8 つのプログラムを開設している(資料1~5)。

共通科目は、教養科目および保健体育科目と外国語科目に区分している。なお、共通科目は、理工学部および建築・環境学部で共 通である。また、共通科目は、必修科目を1年次に配置し、学生が4年間で無理なく履修できるように配慮している。

教養科目には、「総合コース」など広範な分野の授業科目を開設している。また、教育理念に掲げる「キリスト教に基づく人格の陶冶」に基づき、「キリスト教学(聖書)」および「キリスト教学(技術者としての倫理)」を必修として配置している。さらに、初年次教育・高大接続に配慮した「フレッシャーズセミナ」も必修として配置している。

外国語科目には、英語の 4 技能を学ぶ「総合英語」(リーディング、ライティング、リスニング、オーラルコミュニケーション)の 4 科目を 必修として配置している。また、選択必修科目として英語以外にもドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語を配置している。

専門科目は、専門基幹科目および専門基礎科目と専門応用科目に区分している。なお、専門基幹科目は、理工学部および建築・環境学部で共通である。また、専門基幹科目および専門基礎科目は、低年次に履修できるように配置し、各コースの専門応用科目は、基幹となる科目を修得したうえで応用・発展の科目を履修できるように配置している。

専門基幹科目には、各分野に共通する基礎的な理論・方法・技術など、科学者・技術者教育を受ける上で必要不可欠な数学、物理学、化学、生物学、情報、環境などの科目を配置している。なお、専門教育への導入科目である「理工学概論」および「フレッシャーズプロジェクト」と、基本的な情報リテラシーを身につける「情報基礎及び演習 I 」については、1 年次の必修科目として配置している。他にも、各コースにおいて必修科目を定め、配置している。

専門基礎科目には、実験科目などの理工学部で学ぶために必要な基礎知識・方法などを得るための科目を配置している。学生は、各コースの内容に応じて選択学修することができる。なお、コースにより「工学基礎実験」科目等の必修科目を配置している。

専門応用科目には、「生命科学コース」「数理・物理コース」「応用化学コース」「総合機械コース」「自動車コース」「ロボティクスコース」「電気・電子コース」「健康・スポーツ計測コース」「情報ネット・メディアコース」「映像クリエーションコース」「土木・都市防災コース」の 11 コースの専門科目を配置し、コース毎に必修科目を定めている。なお、「卒業研究」関連科目については、全コースにおいて必修として配置している。

このように、共通科目と専門科目は、その位置付けが明確である。また、教育課程の根幹になる科目を必修とし、より広く専門性の高い科目は学生が志向に合わせて選択できるようにしている。そして、授業科目を順次性に応じて開設し、教育課程を体系的に編成している。さらに、教育課程については、科目区分に応じた教育課程表を作成・明示することで、その体系性および授業科目の順次性を担保している。

なお、卒業要件の 124 単位のうち、共通科目においては、教養科目および保健体育 20 単位、外国語科目 8 単位、専門科目においては 88 単位の修得を求めており、共通科目と専門科目をバランスよく編成し、履修者の選択が可能となるよう十分な数の科目を開設している。

今後は、教育課程の体系性および授業科目の順次性をさらに明確にしていくために、カリキュラム・マップやカリキュラム・フローチャートの導入を、高等教育研究・開発センターを中心に検討していく予定である。

項INo	点検・評価項目
422	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供している
422	ή\

現在の状況 (年度開始時)

共通科目による教養教育と、専門科目による専門教育が連携して、基礎や導入から高度の専門教育まで一貫性を持たせている。教養教育は、教育理念にある「人格の陶冶」に寄与し、専門教育は技術者としての能力の育成に寄与するものであり、総合的に学ぶことができる内容となっている。

共通科目は、「人と社会の幸福に貢献する技術者」として必要とされる教養を身につける内容となっている。

教養科目では、「総合コース」などにおいて多様な教養を育成する。また、「キリスト教学(聖書)」および「キリスト教学(技術者としての倫理)」において、建学の精神へ通ずるキリスト教に関する基礎的な教育を行うとともに、技術者として必要な倫理性を修得させる。さらに、「フレッシャーズセミナ」において、高校とは異なる大学での学びにスムーズに対応できるように、大学で学ぶための基礎的な考え方の理解と、日本語表現能力の向上を図る初年次教育を行っている。

外国語科目では、「総合英語」(リーディング、ライティング、リスニング、オーラルコミュニケーション)において、入学時に実施するプレイスメントテストによる習熟度別のクラス編成を行い、英語の4技能について基本的な学力を確認し、大学生として身に付けておかなくてはならない英語力の指針を示し、演習を行っている。特に、外国人講師による「総合英語(オーラルコミュニケーション)」では、生きた英語に接することで、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図っている。なお、プレイスメントテストの点数が低い学生には、「英語基礎(グラマー)」(Ⅰ・Ⅱ)の履修を勧め、補習教育を行っている。

専門科目は、成功体験の積み重ねに重点を置き、学ぶ意欲を高める内容となっている。

専門基幹科目では、専門分野の技術や知識の基礎となる数学、物理学、化学、生物学、情報、環境などの知識を身につける。なお、「理工学概論」において、専門教育への意欲を高めるための導入教育を行っている。また、「フレッシャーズプロジェクト」においても、基礎的な実験技術や研究方法を体験するプロジェクトベースの導入教育を行っている。さらに、「情報基礎及び演習 I 」において、基本的な情報リテラシーを身につける。

専門基礎科目では、各種の実験科目等を通じて、理工学部で学ぶために必要な基礎知識・方法などを修得させる。

なお、専門基幹科目の数学および物理学の科目については、入学時に実施するプレイスメントテストによる習熟度別のクラス編成を 行うが、プレイスメントテストの点数が低い学生を対象に、専門基礎科目の「数学基礎」(I・II)の履修を勧め、補習教育を行っている。 専門応用科目では、各コースの専門性に応じた教育を行っている。

「生命科学コース」においては、微生物学、細胞生物学、分子生物学、有機化学、食品科学、生態学などの、生命科学の様々な分野を広く学修・研究できる内容となっている。多彩な材料と、遺伝子解析装置、各種の顕微鏡、質量分析機などの最新の装置を使った充実した実験科目により、技術者としての実践能力を身につける。

「数理・物理コース」においては、自然科学の基礎学問である数学と物理学の 2 つの分野を学修する。暮らしを豊かにする科学技術の基盤となっている数学と物理学について学ぶと同時に、現代の学問において密接に結びついている両者の関係についても学ぶことができる内容となっている。

「応用化学コース」においては、実践的な化学技術者の育成を目指し、化学の基礎知識の習得と、社会人力の養成として、技術者倫理、グループで研究を行う際の問題解決力、特許についての知識などを身につけることができる内容となっている。

「総合機械コース」においては、安心安全なものづくりを通して、社会に貢献できるエンジニアを育成している。また、自動車、ロボット、原子力発電所、火力プラントなど、どんな分野の機械でも対応できる教育内容を提供し、機械のジェネラリストを育成している。なお、授業では、車椅子の製作や、自転車のフレームを切って紙で補強し8の字コースを何周走れるかを競う実習、図面作成、構造物の強度計算などを行っている。また、ものづくりは一人ではできないため、プロジェクト型の授業を取り入れ、3~5人のチームを組み、協力してものづくりを行っている。

「自動車コース」においては、自動車を教材として機械について学ぶことができる内容となっている。自動車のことのみならず、一般的な機械の仕組みについても学ぶことができる。実習科目が多く 1・2 年次から積極的にモノづくりに関わり、バギーの分解・組み立てをしたり、モーターとバッテリーをつけて動かしたりしている。同時に、設計や製図についても学ぶことができる。また、自動車工房があり、車を設置したまま走行状態を模擬できる「シャーシーダイナモメーター」という装置と、排気ガス分析装置を使って、自動車の燃費計測を行っている。この 2 つの装置を兼ね備えている大学は少なく、エンジンについて実践的に学修することができる。さらに、現在、石油に代わるものとしてバイオ燃料が注目を集めているが、燃料の違いによる燃費や排気ガスの成分の違いなどの研究も行っている。

「ロボティクスコース」においては、1年次から1台ずつのロボットキットを貸し出し、3年間それを手元においてマイロボットとして使うことができる。最初はバラバラの状態だが、組み立てると2足歩行のできる人間型のロボットになるため、これを扱うことでロボットそのものについて深く学べることができる内容となっている。また、それを改良したりカスタマイズしたりすることも可能である。さらに、ロボットというものを通して、ロボットの基礎のみならず、機械・電気・情報、制御について広く均等に基礎を学ぶことができ、将来的には、メカトロクス関係のどの分野でも働くことができるという内容となっている。

「電気・電子コース」においては、充実したナノテクノロジーに関する装置により、世界に通用する人材を育成している。なお、本コースの研究は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業というナノテクノロジー専門のプロジェクトに採択され、設置しているナノテク関係の装置は神奈川県で随一を誇っている。また、再生可能エネルギーを有効に活用するためのスマートグリッド技術など、電気の生産・流通・利用に関する科目の充実により、我が国のエネルギーの未来を支える人材を育成している。

「健康・スポーツ計測コース」においては、身体と健康に関する知識を学んだうえで、計測技術やコンピュータ処理の知識などを学ぶことができる内容となっている。合わせて、実技・実習も行っている。そして、健康とスポーツ、人間情報計測学を身に付けた専門家の養成、健康スポーツを通じて明るく豊かで活力に満ち溢れた社会の構築に寄与する人材の育成を行っている。

「情報ネット・メディアコース」においては、単なるSEではなく、ハードの知識も有するプログラマーを養成している。また、最近において重要な要素になってきている、ミドルウエア部門についても学ぶことができる内容となっている。なお、パソコンによる学修を基本としているが、映像機器やスタジオを使うこともある。

「映像クリエーションコース」においては、業界でも最先端をいくソフトや機器を導入し、さらに第一線で活躍している多彩な講師(=プロのクリエイター)を通じて、肌で「今」や「現場」を感じて学ぶことができる内容となっている。また、3D 用のカメラ機材など日本に数台しかないような機器を揃えている他、プログラミングについて学ぶこともできる内容となっている。学生は、シナリオやデザインといったソフトの部分と、プログラミングなどハード部分の両方を学ぶことができる。さらに、卒業作品の制作も行っている。

「土木・都市防災コース」においては、安全で豊かな都市の計画・実現を目指し、「安全な街を造るエンジニア」と、それを計画する「技術系公務員」を育成している。また、地震や台風などの自然災害から命を守るには、大切な人や自分を守るにはどうしたらよいかについて研究している。さらに、地震や台風などの災害で、どのような被害が発生するかを予測する技術や、地震に耐える地盤や構造物を作る技術を研究している。なお、具体的には装置を使って、耐震診断や、地盤診断、液状化診断などの研究を行っている。本コースでは、他大学や企業が持っていないような土木関連の試験装置が充実しているため、企業や国土交通省などと共同研究が盛んで、学生も積極的に参加できる。

今後は、教育課程(授業科目および教育内容・方法)と学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の整合性を検証するためのツールとして、カリキュラム・マップやカリキュラム・フローチャートの導入を高等教育研究・開発センターを中心に検討していく。

(1) 方針等の設定【年度始】

項目No

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認)に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に<u>箇条書きで</u>記述してください。

(2) 点検・評価(振り返り)【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価(振り返り)を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と 次年度以降に向けた伸長方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目						
421	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体						
421	的に編成しているか。						
	方針・目標・取組・改善方策等						
	課程の体系性および授業科目の順次性をさらに明確にしてい 等教育研究・開発センターを中心に検討していく。	くために、	、カリキュラム・マップやカリキュラム・フローチャートの導入				
	効果が上がった。	・改善され	た事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など)		伸長方策(将来に向けた発展方策)				
教育課	課程について、科目区分に応じた教育課程表を履修要綱に	履修系統	統図に加え、チェックリスト型のカリキュラム・マップの導入				
掲載し	ていたが、これに加え、各コースの履修系統図を作成し、	を高等教育研究・開発センターを中心に検討していく。					
2015年	F度履修要綱から掲載することで、一層授業科目の順次性を						
明確に	に示した (資料4) 。						
	改善す~	ぐき事項					
	内容(明らかになった課題点など)		改善方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	٠٤.						
	評価の	D視点					
1	必要な授業科目が開設されているか。	開設されている/ されていない					
2	順次性のある授業科目が体系的に配置されているか。		配置されている/ されていない				
③ 専門教育・教養科目の位置づけが適切になされているか。(適切である/適切でない				
4	コースワークとリサーチワークのバランスが取れているか。(研究科)	科) 取れている/取れていない				
5	明示している/ していない						

422	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシ・	ー)に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供している				
422	か。					
	方針・目標・取	組・改善方策等				
・教育	課程(授業科目および教育内容・方法)と学位授与方針(ディ	プロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポ				
リシー)	の整合性を検証するためのツールとして、カリキュラム・マップ	プやカリキュラム・フローチャートの導入を高等教育研究・開発センタ				
一を中	心に検討していく。					
	効果が上がった	・改善された事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に向けた発展方策)				
•コー	ス制を導入し、各コースの専門性に応じた教育を行ってい	・現在の教育課程を研修会などの機会に検証を行い、改善を行っ				
る。		ていく。				
•年2回	回の学部および学系研修会において、カリキュラム実施状況	・履修系統図に加え、チェックリスト型のカリキュラム・マップの導入				
の検証	を行っている (資料 6、7) 。	を高等教育研究・開発センターを中心に検討していく。				
	改善すべき事項					
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	1					

点検・評価項目

	評価の視点						
6	学士課程教育に相応しい教育内容の提供をしているか。(学部)	提供している/ していない					
7	初年次教育・高大接続に配慮した教育内容となっているか。(学部)	なっている/なっていない					
8	専門分野の高度化に対応した教育内容を提供しているか。(研究科)	提供している/していない					
9	理論と実務との架橋を図る教育内容の提供をしているか。(法務研究科)	提供している/していない					
10	教育内容の適切性について定期的に検証を行っているか。	検証を行っている/ 行っていない					

上記「2.」の点検・評価(振り返り)結果に基づき、項目毎に

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がにぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の4段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

				自己評価						
項目No	点検・評価項目	評価の視点			2014 年度			2015 年度		
2	WIND KI IM XI	is the second		評価	評価 項目	評価基準	評価	評価	評価	
		1)	必要な授業科目が開設されているか。	視点 A	坦 日	本华	視点 A	項目	基準	
	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2	順次性のある授業科目が体系的に 配置されているか。	А	A	Α	А	A		
421		3	専門教育・教養科目の位置づけが 適切になされているか。(学部)	А			А			
		4	コースワークとリサーチワークのバ ランスが取れているか。(研究科)							
		5	教育課程の体系および順次性を明 示しているか。	ı			Α			
	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	6	学士課程教育に相応しい教育内容 の提供をしているか。(学部)	А			А		Α	
		7	初年次教育・高大接続に配慮した 教育内容となっているか。(学部)	А			А			
422		8	専門分野の高度化に対応した教育 内容を提供しているか。(研究科)		А			А		
		9	理論と実務との架橋を図る教育内 容の提供をしているか。(法務研究 科)							
		10	教育内容の適切性について定期的 に検証を行っているか。	-			А			

[※] 評価基準: 基準項目に対する評価 評価項目: 点検・評価項目に対する評価 評価視点: 評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

資料 No	根拠資料の名称
1	関東学院大学 理念·目的等 p.25~29
2	関東学院大学学則 第8、9条、17条の2、19条、19条の2、25、26、34条
3	関東学院大学理工学部履修規程
4	理工学部「2015 年度履修要綱」
5	2015 年度副専攻履修要綱 p.46~52
6	2015 年度理工学部夏期研修会予稿集
7	2015 年度理工学部春期研修会予稿集

	理工学部
学部・研究科等名	工学部
	(機械工学科、電気電子情報工学科、情報ネット・メディア工学科、社会環境システム学科、物質生命科学科)

基準 No.	基準項目	
4	教育内容·方法·成果	
43	教育方法	

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目
431	教育方法および学修指導は適切か。

現在の状況(年度開始時)

教育目標の達成に向け、授業科目毎に到達目標を定め、適切な授業形態(講義、演習、実験、実習等)を採用している。主に基礎的な知識や専門的な知識を得るための科目を講義科目に、それぞれの専門において基礎的な知識の定着を測るための科目を演習科目に、専門の技術の習熟を行うための科目を実験実習科目としている。なお、授業科目毎の到達目標および授業形態はシラバスに明記している(資料1)。授業形態は履修要綱にも明記している(資料2)。

また、各学期(セメスター)の履修科目登録の上限について 24 単位と履修規程に定め、履修要綱にも明記している(**資料 2、3**)。ただし、諸課程開講科目の単位数、およびインターンシップ、ボランティア活動(ソーシャルサービス)、海外語学研修の認定単位については、これに含めない。他にも、総合的な教育効果等を考慮し、履修科目登録の上限に含めない場合がある。

なお、シラバスおよび授業形態、履修科目登録の上限はホームページでも公表している(資料4、5)。

そして、履修要綱およびシラバス等に基づいた履修指導を行っている。学期(セメスター)毎にオリエンテーションを実施し、学生に成績表を個別に配付するとともに履修指導を行っている。成績不振の学生については、教務委員が別途個別対応を行っている。なお、特に新入生に対しては、入学直後に全体のみならずコース別のオリエンテーションを実施し、モデル時間割等を用いた具体的な履修指導を行っている。また、教務課および教員が個別に履修相談対応を行う時間も別途設けている。さらに、新入生対象の必修科目である「フレッシャーズセミナ」においても、初年次導入教育を行うとともに、履修指導も行っている。他にも、授業科目担当者の全員にオフィスアワーを設定し、シラバスに明示することで、学生への学修指導のさらなる充実を図っている。

なお、「フレッシャーズセミナ」については、複数クラスによる 10 人程度の少人数教育を実施することにより、学生の主体的参加を促し、教育効果を高めている。他にも、特に各専門分野の基幹となる科目についても、少人数教育の実施や再履修クラスの設置などにより、学生の主体的参加を促し、修得度を高めるよう努めている。

また、授業時間外の学修を推進することを目的とした、学修支援システム(Olive Class)を活用した課題の提出と、課題の理解を進めるために上級生による支援を受けるしくみ(学生ファシリテーター)が、学院改革推進 5 カ年計画支援事業に採択され、その取り組みを行なっている(資料 6)。ただし、利用が活発でなく、より活用していく方法を検討していく必要がある。

項目No	点検・評価項目		
432	シラバスに基づいて授業が展開されているか。		
	7月ナッルツワ (大麻田長が中)		

現在の状況(年度開始時)

WEB シラバスシステムを導入し、全学部・研究科で統一書式による運用を行なっている。

また、全学方針に基づき、シラバスの内容に対する組織的な検証体制として、シラバスの形式的なチェック(成績評価に出席点が含まれていないか、項目がきちんと書かれているかなど)を行い、FD 委員会の場で報告している(資料 7)。なお、「授業計画」に「学修課題(予習・復習)」が記載されていない科目が複数あることが識認されている。

なお、授業内容・方法とシラバスとの整合性については、毎学期の「学生による授業改善アンケート」において確認することができる。「授業は授業概要(シラバス)に対応していました」という質問に対して、5 段階(1:全くそう思わない、2:あまりそう思わない、3:どちらともいえない、4:ややそう思う、5:強くそう思う)による学生の評価を受ける。2014年度の実施結果では、春学期の平均は3.9、秋学期の平均は4.0 であった。比較的肯定的な評価であり、概ねシラバスに基づいた授業が展開されている(授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れている)と言える(資料8、9)。

今後は、教育目標の達成に向けて、教育方法および学修指導をより適切に行っていくために、シラバスの内容と学位授与方針(ディ プロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の整合性を検証するためのツールとして、カリキュラム・マッ プの作成を高等教育研究・開発センターを中心に検討していく。

項目No	点検・評価項目
------	---------

433 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

現在の状況 (年度開始時)

学則に基づき履修規程を定め、成績評価および単位認定を適切に行っている(資料 3、10)。また、GPA 制度も導入している。

成績評価について、実験実習科目においては、実験実習の知識・技術の修得・定着が目的であるので、実験実習に出席・参加することは評価の前提である。これについては主として、「実験レポート」「口頭試問」「最終試験」によって達成状況を判断しており、各回の評価を積み重ねて当該科目の最終評価を行っている。より具体的な評価基準は、担当教員グループで合議によって決定し、初回オリエンテーションの際に履修者全員に配布・説明・周知している。

また、卒業研究においては、その内容により、達成目標を学期始めに明確に設定できるとは限らない。そのため、学生と指導教員との打ち合わせ、オリエンテーション、日常の指導の中で目標を定めていくことや、難易度を調整するために最終目標を修正することも行っている。卒業研究の評価は、「期首の目標の何%達成したか」という数値目標で行われるものではなく、卒業研究に対する取り組み、卒業論文の技術論文としての評価、卒業研究の研究的価値、卒業研究発表会での発表、努力の過程のすべてを考慮して評価されているのが実態である。そのなかで数値(評定)として評価可能な指標以外の、取り組みや研究態度といった主観的評価項目は、卒業研究の審査会によって審議され、評価者個人の主観で評価することのないよう配慮している。また、評価方法については、卒業研究配属時に学生に周知している。

単位認定について、単位の算定基準を定め、それに基づき授業科目の単位数を設定している。なお、授業時間外の学修の推進について、学院改革推進 5 ヵ年計画支援事業として進めている。ただし、予習・復習等の課題設定については各科目担当者に任されており、課題が提示されている科目は、2014 年度は 63%であり、十分に高い割合となっていない(資料 11)。今後は、課題の提示率を上げるための方策について検討を行う必要がある。

また、編入学生の既修得単位の認定も行っている。さらに、横浜市内大学間単位互換協定大学で単位互換履修生として修得した単位、文部科学大臣が定めるところにより技能審査等の認定評価、新入生の既修得単位、「学生の外国留学に関する規程」(資料 12)に基づき留学により修得した単位についても、合わせて 60 単位を超えない範囲で単位認定することがある。これらの既修得等の単位認定は、教務委員会および教授会の審議を経て承認している。

なお、成績評価方法・基準については、シラバスにより学生に明示している(資料 1)。また、成績の評価および単位制度、単位の認定、GPAの算出方法等、履修規程については、履修要綱において学生に明示している(資料 2)。

項目No

434

教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。(※ここでの FD は「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動を指す。「教員の資質向上」に関する活動は、点検・評価項目 No.304 参照。)

現在の状況 (年度開始時)

高等教育研究センターが中心的な役割を担い、教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけるために、主に以下の方策を全学的に実施している。

- ・学生による授業改善アンケート
- ·公開授業(専任教員)
- ・シラバス記載事項等の見直し(内容の充実)
- ・段階的・組織的なシラバスチェック体制の整備
- ・教育・研究等活動に関する自己点検・評価(専任教員)

本学部では、FD委員会を設置・開催し、「学生による授業改善アンケート」の実施および結果の検討、公開授業の開催、外部研修会の通知・報告などを行い、授業の内容および方法の改善を図っている(資料13)。なお、公開授業について、授業参観者数が少ないことが現状の課題である。2014 年度は、秋学期に開催した FD 委員会において、参観推奨科目の一覧を作成し、参加を促した。その結果、春学期よりも参観者数は増加したが、まだその割合は低い状況である(資料14)。また、学部および各学系の研修会を年2回の開催し、授業内容および方法の改善についても検討を行っている(資料15、16)。なお、FD 委員会において、学部のFD目標を「カリキュラム達成度評価の確立を目指す」ことと、「授業外学修を推進する」こととしており、これに基づき学系毎に FD 目標を設定している。

(1) 方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認)に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に<u>箇条書きで</u>記述してください。

(2) 点検・評価(振り返り)【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価(振り返り)を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と 次年度以降に向けた伸長方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	o 点検・評価項目					
431	431 教育方法および学修指導は適切か。					
	方針・目標・取組・改善方策等					
, ,	下振の学生に対する面談のしくみを整備する。					
•授業	寺間外の学修を推進する取り組みの効果を上げる。	7/ 3/4 (,) .) - - - - - - - - - - 				
	効果が上がった。		/////			
	内容(特色ある取組や成果創出など)		(将来に向けた発展方策)			
オリエ	ンテーションにおいて、教員が成績表を個別に配付し、成	成績不振の学生に対する	面談を今後も継続、改善していく。			
績をみ	て履修指導を行っている。2015 年度からは、学期あたりの					
単位修	得数が 10 単位以下の学生に対して、オリエンテーション期					
間に形	式を定めた面談表を用い、面談を行っている。IR 推進室と					
の連携	により、成績不振の原因分析も行っている(資料 17、18)。					
	改善す~	べき 事項				
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策	(将来に向けた発展方策)			
授業外	学修課題の取り組み(ファシリテーター)については、各学	今後も授業外学修の取り	組みを継続して進めていく。			
系で行	われているが、まだ、十分な効果を挙げているとはいえな					
い。						
	評価の	D 視点				
1	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)を	採用している/していない				
2	履修科目登録の上限を適切に設定しているか。	設定している/ していない				
3	学修指導が充実しているか。	充実している/していない				
④ 学生の主体的参加を促す授業方法を用いているか。		用いている/ 用いていない				
5	⑤ 研究指導計画に基づき研究指導・学位論文作成指導を行っているか。(研究科)		行っている/行っていない			
6	⑥ 実務的能力の向上を目指した教育方法を用い、学修指導を行っているか。(法務研究科) 行っている/行っていない					

項目No	点検・評価項目					
432	シラバスに基づいて授業が展開されているか。					
	方針・目標・取	組・改善方策等				
段階	的に組織的なシラバスチェック体制の整備を進め、授業内容・	方法とシラバスとの整合を図る。				
・シラハ	バスに不備のある教員に対して訂正を求める。					
	効果が上がった・改善された事項					
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)					
全学的	全学的な方針に従い2015年度のシラバスについても形式につい チェックリスト型のカリキュラム・マップを作成し、科目の到達					
てのチ	てのチェックを行った(資料 19)。出席が加点要素と解釈されかね などについてのチェック体制を整備していく。					
ないシ	ないシラバスについては、2016 年度シラバス執筆依頼時に個別					
に連絡	正連絡をとり、修正を依頼した。					
	改善すべき事項					
	内容(明らかにかった課題占かど) 改善力策(資本に向けた発展力策)					

特になし。		
	評価の	り視点
7	シラバスの内容の充実を図っているか。	図っている/図っていない
8	授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れているか。	取れている/ 取れていない
9	シラバスの内容に対する検証を組織的に行っているか。	行っている/ 行っていない

項目No	点検・評価項目				
433	成績評価と単位認定は適切に行われているか。				
	方針・目標・取	組・改善方策等			
		おいて、授業科目における予習・復習等の課題の提示率を上げるた			
めの方	策について検討を行う。				
	効果が上がった。	・改善された事項			
	内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に向けた発展方策)			
特にな	il.				
	改善すべ	べき事項			
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)				
授業外	学修課題についてのアンケートを行っているが、講義科目	今後も授業外学修の取り組みを継続して進めていく。			
におい	において、提示率が74%であった。2014年度の63%に比べると、				
向上し	向上しているが、目標とする数値には、まだ届いていない (資料				
20)。					
	評価の	D 視点			
10	成績評価方法・評価基準を明示しているか。	明示している/ していない			
11)	単位認定は単位制度に基づき適切に行われているか。	行われていない			
12	既修得単位認定は適切に行われているか。	行われている/ 行われていない			

項目No	点検・評価項目					
	教育成果について定期的な検証を行い、その結果	果を教育課程や教育内容・方法	の改善に結びつけている			
434	か。(※ここでの FD は「教育課程や教育内容・方法	の改善」に関する活動を指す。	「教員の資質向上」に関す			
	る活動は、点検・評価項目 No.304 参照。)					
	方針・目標・取	組・改善方策等				
•公開	受業において、FD 委員会の活動を通じて、授業参観者数のb	曽加を図る。				
	効果が上がった	改善された事項				
内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)						
2015 4	年度春学期の授業改善アンケートの総合評価は、昨年度に	FD 活動を通じて、今後も引き続き向上するようにする。				
比べて	「向上していた(資料21)。					
	改善すべ	*き事項				
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策 (将来に向	けた発展方策)			
2015 年	F度は、授業公開のしくみが変わり、各学期内の 2 週間の間	公開授業において、FD 委員会の治	舌動を通じて、授業参観者数の			
にどの	授業でも参観できるようになった。春学期については参観	増加を図る方法を検討する。				
者が増	記たが、秋学期は減少した (資料 22、23) 。2015 年度につ					
いても	いても、授業参観者は増加しなかった。					
	デ価の視点					
13	③ 教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。 実施している/していない					

上記「2.」の点検・評価(振り返り)結果に基づき、項目毎に

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がにぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の4段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

					自己評価							
項目No	点検・評価項目	評価の視点		2014 年度			2015 年度					
MA HTIMPALI			B I IIIIdo⊃ CADVIII		評価 項目	評価 基準	評価視点	評価 項目	評価基準			
	教育方法および学修指導は適切か。				1	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等)を採用しているか。	А			А		
		2	履修科目登録の上限を適切に設定 しているか。	А			А	В				
421		3	学修指導が充実しているか。	Α	D		Α					
431		4	学生の主体的参加を促す授業方法 を用いているか。	В	В		В					
		5	研究指導計画に基づき研究指導・ 学位論文作成指導を行っている か。(研究科)			В						
		6	実務的能力の向上を目指した教育 方法を用い、学修指導を行ってい るか。(法務研究科)									
	シラバスに基づいて授業が展開されているか。	7	シラバスの内容の充実を図ってい るか。	А			А		В			
432		8	授業内容・方法とシラバスとの整合 性は取れているか。	А	А		А	А				
		9	シラバスの内容に対する検証を組 織的に行っているか。	А			А					
			成績評価方法・評価基準を明示しているか。	А			Α					
433	成績評価と単位認定は適切に行われているか。	(1)	単位認定は単位制度に基づき適切 に行われているか。	В	В		В	В				
		12	教育課程や教育内容・方法・成果 の改善を図るための組織的研修・ 研究を実施しているか。	А			Α					
434	教育成果について定期的な検証 を行い、その結果を教育課程や 教育内容・方法の改善に結びつ けているか。			E	3							

[※] 評価基準:基準項目に対する評価 評価項目:点検・評価項目に対する評価 評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

資料No	根拠資料の名称
1	年間の授業計画の概要(Web シラバス)
'	https://info.kanto-gakuin.ac.jp/portal/slbsskgr.do?clearAccessData=true&contenam=slbsskgr&kjnmnNo=7
2	理工学部「2015 年度履修要綱」
3	関東学院大学理工学部履修規程
4	関東学院大学ホームページ「5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること」
7	http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html#anchor-05
5	関東学院大学ホームページ「6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること」
	http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html#anchor-06
6	平成25年度学院改革推進5カ年計画報告書
7	2014年度第1回理工学部FD 委員会議事録
8	2014年度春学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」(理工学部、工学部)
9	2014年度秋学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」(理工学部、工学部)
10	関東学院大学学則 第9~13、20~22条
11	2014年度理工学部事業報告
12	学生の外国留学に関する規程
13	関東学院大学理工学部FD委員会規程
14	2014年度第11回理工学部教務委員会議事録
15	2014年度理工学部夏期研修会
16	2014年度理工学部春期研修会
17	2015年度第6回理工学部教務委員会議事録
18	2015 年度第 12 回理工学部教務委員会議事録
19	2015年度第2回工学部·工学研究科FD委員会審議事項1
20	2015 年度理工学部事業報告
21	2015年度第9回理工学部教務委員会資料5
22	2015年度第3回工学部·工学研究科FD委員会議事録
23	2015年度第4回工学部·工学研究科 FD 委員会議事録

	理工学部
学部・研究科等名	工学部
	(機械工学科、電気電子情報工学科、情報ネット・メディア工学科、社会環境システム学科、物質生命科学科)

基準 No.	基準項目
4	教育内容•方法•成果
44	成果

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目		
441	教育目標に沿った成果が上がっているか。		
	現在の状況(年度開始時)		

FD 委員会において、「カリキュラム達成度評価の確立を目指す」ことを学部の FD 目標として掲げ、これに基づき学系毎に FD 目標を設定している。 ただし、学系毎に目標設定および活動を行っているため、学生の学修成果を測定するための評価指標の開発・提案や評価方法等について、学部としての統一ができていない。

一方で、「学生による授業改善アンケート」の結果は、教育の成果を示すひとつの指標であるといえる。2014年度の実績は以下のとおりである(資料 1、2)。

- ・「授業の総合評価」では、春学期の平均は 3.80 であり、秋学期の平均は 3.87 であった。 概ね肯定的な評価であり、学生が講義を肯定的に捉えているといえる。
- ・「授業の到達目標及びテーマに掲げられている知識やスキルが身につくと思いますか」という設問では、春学期の平均は 3.77 であり、 秋学期の平均は 3.84 であった。概ね肯定的な評価であり、開設している各科目の目標設定は適切なものとして学生に受け入れられているといえる。
- ・「この授業での自分の成績はどのようにつくと思いますか」という学生の自己評価に関連する設問では、春学期の平均は 3.16 であり、 秋学期の平均は 3.25 であった。なお、5 段階評価は「1:不可、2:可、3:良、4:優、5:秀」である。

また、卒業判定の合格率(5月1日現在の最終学年在籍学生数に対する卒業判定合格者数の割合)、就職率(就職希望者数に対する 就職者数の割合)、大学院進学率についても、教育の成果を示す指標として捉えている。

なお、学生の自己成長評価および卒業生に対する卒業後の評価(就職先評価や卒業生評価等)については行えていない。

項目No	点検・評価項目	
442	学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。	
	現在の状況(年度開始時)	

学位授与基準(卒業要件)については、履修規程に定め、履修要綱等によって学生に明示している**(資料 3、4)**。また、3 年次終了時点で所定の単位が取得できていない学生に対して、4 年次の必修である卒業研究科目の履修を制限している。

学位授与手続き(卒業査定)については、学則に則り教授会の審議事項としている(**資料 5**)。なお、より厳正に審査するため、教務委員会での審議を受けたうえで、教授会で同様の審議を行っている。

(1) 方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認)に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に<u>箇条書きで</u>記述してください。

(2) 点検・評価(振り返り)【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価(振り返り)を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と 次年度以降に向けた伸長方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行なってください。

項目No	点検	・評価	項目	
441	教育目標に沿った成果が上がっているか。			
	方針・目標・取組・改善方策等			
•学生	の学修成果を測定するための評価指標の開発・提案や評価方	法等に	こついて、学部としての統一的な対応を FD 委員会において	
検討す		T; /TT* /r:/*·\) z a) vzka Lhy	
•字至(の自己成長評価および卒業後の評価(就職先評価や卒業生語			
	効果が上がった。	以音	されバンチリ	
	内容(特色ある取組や成果創出など)		伸長方策(将来に向けた発展方策)	
特にな	特になし			
	改善す~	で書き	頁	
	内容(明らかになった課題点など)		改善方策(将来に向けた発展方策)	
学系角	氏に目標設定および活動を行っているため、学生の学修成	学生	の学修成果を測定するための評価指標の開発・提案や評価	
果を測定するための評価指標の開発・提案や評価方法等につい		方法等について、学部としての統一的な対応を FD 委員会におい		
て、学部としての統一ができていない。		て検討する。		
学生の自己成長評価および卒業後の評価(就職先評価や卒業生 学生の自己成長評価および卒業後の評価(就職先		の自己成長評価および卒業後の評価(就職先評価や卒業生		
評価等)については行っていない。		評価等)について検討する。		
評価の視点				
① 学生の学修成果を測定するための評価指標を開発しているか。 開発している/していない		開発 している /していない		
2	学生の自己評価、卒業後の評価を行っているか。		行っている /行っていない	

項目No	点検・評価項目				
442	学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。				
	方針・目標・取	組・改善方策等			
学位授	5与(卒業·修了認定)を適切に行う。				
	効果が上がった・改善された事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に向	けた発展方策)		
工学部	工学部卒業生について、定められた基準により適切に卒業査定 学位授与(卒業・修了認定)を今後も適切に行う。				
が行わ	が行われた(資料 6、7)。				
	改善すべき事項				
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)		けた発展方策)		
特になし。					
評価の視点					
3	学位授与基準、学位授与手続きは適切か。		適切である/ 適切でない		
④ 学位審査および修了認定の客観性・厳格性確保の方策を講じているか。(研究科、法務研究科) 講じている/講じていない		講じている/講じていない			

上記「2.」の点検・評価(振り返り)結果に基づき、項目毎に

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がにぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の4段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

		評価の視点		自己評価					
項目No	点検・評価項目			2014 年度			2015 年度		
ДДПО				評価	評価	評価	評価	評価	評価
				視点	項目	基準	視点	項目	基準
4.4.1	教育目標に沿った成果が上がっているか。	1	学生の学修成果を測定するための 評価指標を開発しているか。	В	В		В	6	
441		2	学生の自己評価、卒業後の評価を 行っているか。	В		В	В	В	
442	学位授与(卒業・修了認定)は適 切に行われているか。	3	学位授与基準、学位授与手続きは適切か。	А		В	А		В
		4	学位審査および修了認定の客観性・厳格性確保の方策を講じているか。(研究科、法務研究科)		A			A	

※ 評価基準: 基準項目に対する評価 評価項目: 点検・評価項目に対する評価 評価視点: 評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始·年度末】

資料 No	根拠資料の名称
1	2014年度春学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」(理工学部、工学部)
2	2014年度秋学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」(理工学部、工学部)
3	関東学院大学理工学部履修規程 第20~22条
4	理工学部「2015 年度履修要綱」
5	関東学院大学学則 第52条第2項第2号
6	第7回工学部教務委員会議事録
7	第14回工学部教務委員会議事録

学部・研究科等名	押丁学 郊
子可"切九件守石	上上子司)

基準 No.	基準項目
5	学生の受け入れ

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目		
501	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を明示しているか。		
	現在の状況(年度開始時)		

<3ポリシー(入学者受入方針(アドミッション・ポリシー))について>

理工学部の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を大学ホームページ、学部ホームページ、学生募集要項などの広報媒体で公開している(資料1、2、3)。

大学の入学者受入方針との整合性を取りつつ、2014年度に各方針の整合性を念頭に置き、3ポリシーの再策定を行った。 なお、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を再策定したが、入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)は変更していない。

<修得しておくべき知識等の内容・水準について>

各入学試験における試験科目において、教科・科目等を明示しているものの、理工学部が求める基礎学力として高等学校で修得しておくべき内容が各コースで異なるため、学部レベルの入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)では水準を定めておらず、明示していない。

<障がいのある学生の受け入れについて>

障がいのある学生の受け入れについては、大学全体の姿勢に準じて理工学部も対応している。受験生からの事前の申し出には、原則として来校を求めて、就学上の措置まで見据えて、出願する学部学科が直接、事前相談に応じている。その上で、学部学科の各入学試験において適切な措置を取り、障がいのある学生も公平に受け入れている。

項目No	o 点検・評価項目	
1 5(1)	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行って	
	いるか。	

現在の状況 (年度開始時)

学生募集および入学者選抜は、文部科学省の定める「大学入学者選抜実施要項」に則り、大学の「入学者選抜規程」を定めて実施している。入学者選抜規程により大学入試委員会を設置し、各入学試験に関わる基本事項(入学者選抜方法(入試区分)、入試日程、入試実施体制、入試査定原案(入試区分毎の合格者数)などを審議している(資料4、5)。

理工学部では、種々の入試制度を実施しており、様々な入学希望者へ受験機会を開いている。入学者選抜試験は、すべての入試区分において理工学部と入試センターで連携して厳正に実施している。

合否判定は、すべての入学試験で、学部入試委員会で査定原案を作成し、教授会で審議・決定している。合否判定の審議に際しては、採点結果のみで判定し、恣意的な判断が介在しないようにして公平性を保っている。

また、どの入試区分においても、採点は数値化による順位付けを行い合否判定の公正性を確保している。

受験生に対しては試験問題および、志願者数、合格者数、倍率等をホームページで公開して透明性を確保している。

項目No	点検・評価項目
503	適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
	現在の状況(年度開始時)

2013 年度に開設した理工学部の、2015 年 5 月 1 日現在における定員充足率(収容定員に対する在籍学生数比率)は 1.06(収容定員 1,316 名:在籍学生数 1,392 名)で適切な範囲である。また、入学定員に対する入学者数比率の過去 3 年間の平均は 1.12 で適切である (資料 6)。

過去に定員充足率が超過していた学系については、大学入試委員会で策定した合格者数案に沿って適正な入学者数となるように是正している。

項INo	点検・評価項目
	学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、公正かつ適切に実施さ
001	れているかについて、定期的に検証を行っているか。
	現在の状況(年度開始時)

大学入試委員会において、当年度の入試状況総括を実施し、公正性と妥当性を検証し、次年度の学生募集戦略および入学者選抜方法、入学区分別毎の募集人数を検討している。

理工学部においては、入試センターと連携し、理工学部入試委員会で学生募集および入学者選抜の適切性を検証し、翌年度の入試 に反映している。

(1) 方針等の設定【年度始】

項目No

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認)に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に<u>箇条書きで</u>記述してください。

(2) 点検・評価(振り返り)【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価(振り返り)を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容 と次年度以降に向けた伸長方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目				
501	501 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を明示しているか。				
	方針・目標・取	組・改善方策等			
	学部ホームページ、学生募集要項、ガイドブックなどの広報媒				
	るように再策定した理工学部の 3 ポリシーを公開する。・各コ	ースで求める基礎学力として高等学	校で修得しておくべき水準を決		
定する	とともに、理工学部ホームページ等で公開する。	nt Mr. (1) 2. mlaser			
	効果が上がった。	・ 改善された事項			
	内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に同	句けた発展方策)		
再策定	じた3ポリシーを公開した。	コース別の入学者受入方針(アドミ	ッション・ポリシー)を策定、公開		
		する。			
	改善す~	べき事項			
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に「	句けた発展方策)		
各コー	スで求める基礎学力として高等学校で修得しておくべき教	高等学校で修得しておくべき教科	、科目の水準を含んだ各コース		
科、科	目の水準を決定、公開できなかった。	の入学者受入方針(アドミッション・	ポリシー)を策定、公開する。		
	評価の	D 視点			
1	① 求める学生像(入学者受入方針(アドミッション・ポリシー))を明示しているか。 明示している/していない				
2	② 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)との整合性 取れているか。		取れている/取れていない		
3	③ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき 明示しているか。 明示しているか。				
4	④ 障がいのある学生の受け入れ方針があるか。 方針がある /ない				

- AHIVO					
502	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づ	き、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行って			
302	502 いるか。				
	方針・目標・取	組・改善方策等			
各コー	-スで必要とする内容・水準が異なるため、学部レベルの入学	学者受入方針(アドミッション・ポリシー)では定めることができないこと			
から、名	各コース別に水準を定めて、明示する。				
	効果が上がった・改善された事項				
	内容(特色ある取組や成果創出など) 伸長方策(将来に向けた発展方策)				
理工学部入試委員会で公正かつ適切な学生募集方法および入 コース別の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を策定		コース別の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を策定、公開			
学者選	抜方法を検討、審議している。	する。			
AO 入	AO 入試同日に試験監督者を対象とした説明会を開催し、公正か				
つ適切	Iに入学者選抜を行っている。				
理工学	理工学部教授会で合否査定を審議している。				
	改善すべき事項				
	内容(明らかになった課題点など)	改善方策(将来に向けた発展方策)			
各コー	各コースで求める基礎学力として高等学校で修得しておくべき教 高等学校で修得しておくべき教科、科目の水準を含んだ各コース				

点検・評価項目

科、科目の水準を決定、公開できなかった。		の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を策定、公開する。	
	評価の視点		
(5)	学生募集方法、入学者選抜方法は適切か。	適切である /適切でない	
⑥ 入学者選抜において透明性を確保するための措置は適切		か。 適切である /適切でない	

項目No	点核	・評価項	頁目			
503	503 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。					
	方針・目標・取	組・改善	等方策等			
•2014	年度に引き続き、過年度の志願者動向、他大学の志願動向な	ょどを踏まえ	えたうえで、入学者数、在籍学生数が入学定員、収容定	容定員		
と大幅	に乖離することがないように大学入試委員会で策定された各	入試の合材	h格者数案をもとに、入試センターと協力し、入試選抜を	抜を実		
施する	<u> </u>					
	学系、化学学系の学系定員に対する在籍学生数が過剰である					
	、年次進行により、数物学系、化学学系の平均入学定員充足	率が適止な	な範囲になるよう合格者数決定プロセスに従って人学者	字者選		
扱を実	施する。					
	効果が上がった。	・改善され	hた事項 Republication Republica			
	内容(特色ある取組や成果創出など)		伸長方策(将来に向けた発展方策)			
理工学	部入試委員会で年度初めに入試区分ごとの目標入学者数	入試区分	分ごとの目標入学者数に基づき入学者数を適切に管理	 き理す		
を設定	している。	る。				
入試区	[分ごとの募集人数を検討、審議している。					
	改善すべ	べき事項				
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)					
入試センターからの要請により後期日程の合格倍率が高くなっ		入試センターに適切な管理を依頼する。				
た。	た。					
	評価の視点					
7	⑦ 収容定員に対する在籍学生数比率は適切か。 適切である /適切でない					

項目No	点検・評価項目				
EO4	学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針(ご	アドミッション・ポリシー)に基づき、公正かつ適切に実施さ			
504	れているかについて、定期的に検証を行っているか)°°			
	方針・目標・取	組・改善方策等			
•学生	募集および入学者選抜を、入学者受入方針(アドミッション・ポ	リシー)に基づき、公正かつ適切に実施されているか検証する。			
	効果が上がった	・改善された事項			
	内容(特色ある取組や成果創出など)	伸長方策(将来に向けた発展方策)			
当該年	E度の学生募集および入学者選抜結果、また、在学生の追	理工学部全体の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)だけで			
跡調査	結果について総括している。	なく、コース別の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づ			
前年度	ぎ の総括をもとに、次年度の学生募集戦略および入学者選	き、学生募集および入学者選抜を公正かつ適切に実施する。			
抜方法	E、入試区分ごとの募集人数を検討している。				
	改善する	べき事項			
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)				
特にな	rl.				
	デ価の視点				
9	定期的に検証を行っているか。	検証を行っている /行っていない			

対応している/していない

定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して対応しているか。

上記「2.」の点検・評価(振り返り)結果に基づき、項目毎に

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がにぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の4段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

						自己	評価		
項目No	点検・評価項目			2014 年度			2015 年度		
УДПО	가에 옷 티 III-X 티			評価	評価	評価	評価	評価	評価
		1)	求める学生像(入学者受入方針(ア ドミッション・ポリシー))を明示して いるか。	<mark>視点</mark> S	項目	基準	<mark>視点</mark> S	項目	基準
501	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を明示しているか。	2	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)との整合性は取れているか。	А	С		S	А	
301		3	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示しているか。	С		В			
		4	障がいのある学生の受け入れ方針 があるか。	S			S		
F02	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、公正かつ適	5	学生募集方法、入学者選抜方法は 適切か。	S	В	С	S	C	А
502	切に学生募集および入学者選抜 を行っているか。	6	入学者選抜において透明性を確保 するための措置は適切か。	S	В		S	S	
F02	適切な定員を設定し、学生を受け 入れるとともに、在籍学生数を収	7	収容定員に対する在籍学生数比率 は適切か。	В	C		А	٨	
503	容定員に基づき適正に管理して いるか。	8	定員に対する在籍学生数の過剰・ 未充足に関して対応しているか。	S	S		S	А	
504	学生募集および入学者選抜は、 入学者受入方針(アドミッション・ ポリシー)に基づき、公正かつ適 切に実施されているかについて、 定期的に検証を行っているか。	9	定期的に検証を行っているか。	Ş	5		Ş	5	

※ 評価基準:基準項目に対する評価 評価項目:点検・評価項目に対する評価 評価視点:評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

資料 No	根拠資料の名称			
1	大学及び学部・研究科の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び入学者受入方針			
2	(http://univ.kanto-gakuin. ac.jp/content/files/about/disclosure_1-3.pdf) 「理工学部 関東学院大学」のアドミッション・ポリシー			
	(http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/faculty/science_and_engineering.html)			
3	2015 年度 学生募集要項			
4	関東学院大学入学者選抜規程			
5	関東学院大学入試委員会規程			
6	2015 年度大学基礎データ 表 4 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数			

	理工学部
学部·研究科等名	工学部
	(機械工学科、電気電子情報工学科、情報ネット・メディア工学科、社会環境ンステム学科、物質生命科学科)

基準 No.	基準項目
7	教育研究等環境

1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

項目No	点検・評価項目		
704	教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。		
	現在の状況(年度開始時)		

実験・実習のためにEF館(実験棟)、オリーブファクトリー(実習棟)、工学本館(研究室棟)、工学本館付属棟(実験棟)、6号館オリーブテクノセンター(実験・研究棟)を整備している。また、Foresight21館8階フロアにはバーチャルスタジオがあり、マルチメディア実習で映像を撮影するための最新の設備・機材をそろえ、テレビ放送も可能な高品質な映像が制作できる。

ティーチング・アシスタント(TA)、スチューデント・アシスタント(SA)などの教育研究支援体制を整備している**(資料 1、2)**。 2013 年度より授業外学習支援のためのファシリテータ(学習支援学生)制度を実施している。

教員の研究費・研究室については確保されている。研究専念時間については学部間や教員間で差があり、一律的な確保が難しい状況である。

(1) 方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認)に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に<u>箇条書きで</u>記述してください。

(2) 点検・評価(振り返り)【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価(振り返り)を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容 と次年度以降に向けた伸長方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、<u>箇条書きで</u>記述してください。
- ⇒ 点検・評価(振り返り)をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

項目No	点検・評価項目						
704	4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。						
	方針・目標・取組・改善方策等						
	・施設・設備の利用環境の整備を進める。						
1	・TA、SAによる教育支援を継続する。						
	・ファシリテータの利用を広げる。						
・教員	・教員業務の整理を進め、研究専念時間の確保に努める。						
	効果が上がった・改善された事項						
内容(特色ある取組や成果創出など)			長方策(将来に向けた発展方策)				
2013 年に開始したファシリテータ(学習支援学生)制度の活用科 制		制度の利用方法を整備し、継続的に活用する。					
目数が	、1年目10科目から28科目、41科目へと増加した。						
	改善すべき事項						
	内容(明らかになった課題点など) 改善方策(将来に向けた発展方策)						
研究専	京念時間の確保、拡充に繋がる教員業務の整理が進められ	会議等の業務整理を検討する。					
ていな	ていない。						
	デ価の視点						
11)	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備しているか。		整備している/ していない				
12	② ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備しているか。		整備している/ していない				
13	③ 教員の研究費・研究室および研究専念時間は確保されているか。		確保されている/ されていない				

上記「2.」の点検・評価(振り返り)結果に基づき、項目毎に

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がにぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の4段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

		自己評価							
項目No	点検・評価項目	評価の視点		2014 年度			2015 年度		
				評価	評価	評価	評価	評価	評価
				視点	項目	基準	視点	項目	基準
	教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。	11)	教育課程の特徴、学生数、教育方法 等に応じた施設・設備を整備しているか。	А	В		А		
704		12	ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備しているか。	А			А	В	
		13	教員の研究費・研究室および研究 専念時間は確保されているか。	В			В		

※ 評価基準: 基準項目に対する評価 評価項目: 点検・評価項目に対する評価 評価視点: 評価の視点に対する評価

4. 根拠資料【年度始・年度末】

資	斜No	根拠資料の名称	
	1	関東学院大学ティーチング・アシスタントに関する規程	
	2	関東学院大学スチューデント・アシスタントに関する規程	